

チボリ問題に関する市議会報告

2006年4月27日 倉敷市議会議員 田辺昭夫

1、チボリ問題での古市市長の対応

①チボリ・ジャパン社有価証券購入問題

「融資の一部が有価証券購入にあてられていたのは事実。それは融資の条件に合わないという
ことを、取締役としても、倉敷市長としても申しれをしている。(倉敷市の) 融資の必要
がないものであるなら、融資の必要はなくなるわけで、チボリ社に改善を求めている」

(2005年9月議会)

②チボリに対する認識

「第3セクター形式には問題も多く、民間でやるほうがすっきりする」

(2005年12月議会)

③県の見直し案を受けて

「チボリの存続にむけて協力は惜しまないが、これまでの記者会見で述べてきた『倉敷市
の税金は投入しない』とのスタンスは変わっていない」

(2006年2月議会小山議員の代表質問)

④知事との会談を終えて

「県が今までの支援ができないからといって、市が肩代わりできるものではない」と県が
求める固定資産税相当などの財政支援はしないという考えを改めて表明。「市としての協
力のイメージとしては、市民の展示・発表や地産地消といったイベントで広く倉敷市の文
化をPRするということもある」

(2006年3月23日記者会見)

⑤日本共産党市議団の申し入れに対して

「新たな税金投入をチボリにしないという考えは変わっていないし、変えるつもりはない」

(2006年4月5日)

⑥4月5日の代表者会議で

「3月31日にチボリの今後の方向性を県が示し、倉敷市に相応の協力を求められている
ので、市議会として協議していただきたい。私としては県の負担を肩代わりするような倉
敷市として新たな税金投入しないということに変わりはない」

⑦服部社長の辞任を受けて

「新たな税金投入はしないというスタンスは変わらない」とする一方「市民の声を聞くと
存続を望む声が圧倒的。その中で市がどういう形で協力できるかを、県、市議会と協議し
たい」

(2006年4月25日記者会見)

2、倉敷市議会の対応

①2月市議会での各会派の立場

自由民主クラブ 「チボリ公園はそもそも、岡山県が倉敷市に財政負担をかけないということで始まった事業。すでに倉敷市は既に15億円の出資、そして18年度は38億3,290万円の融資をするわけですかありますから、今さら、これ以上の財政負担はすべきでないと考えます」

(秋山正議員)

日本共産党市議団 「そもそも、チボリ公園は、岡山市の市制100周年記念事業で誘致が計画されました。選挙で市長が交代して岡山市が手を引くと、岡山県が倉敷市に押し付け、倉敷市がチボリへの財政負担はしないことを条件に誘致したものです。しかし、「岡山市で要らないとされたものは倉敷市にもいらない」と市民の多くが反対しました。今回のパターン1および2のように、倉敷市に財政負担を求めるのは約束違反です。新たな税金投入をすべきでない、と考えます」

(小山博通議員)

公明党市議団 「今回、県の方からは3つのパターンが示されていますが、あくまでも新たな財政支出がないことがわが会派のスタンスでございます。その上にとって、チボリ公園の所在地である我が市が、慎重な議論を県に対して行っていただきたいと思えます。

(森分敏明議員)

②県の実施したチボリアンケートに対して

- 1) 日本共産党市議団が抗議声明
- 2) 自由民主クラブが声明
- 3) 議会運営委員会で、県に抗議することを確認
- 4) 各会派代表者会議で抗議文作成
- 5) 会派代表者と議会運営委員長が岡山県庁に出向き、島津副知事に抗議文を提出

③4月5日代表者会議

県の見直し案を受けて市議会の対応を協議

市長のスタンスに変わりがないことを確認
市としての方針を示せ